

福井の幕末明治 歴史秘話

<第20号>

平成28年10月31日発行

せご 西郷どんと交流を深めた幕末明治の福井の先人達 ~番外編 ~大久保利通と松平春嶽~

せご
平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛と福井の先人達との関わりを取り上げるシリーズ。今回は番外編として、西郷の親友で、後に、敵対した維新のもう一人の元勳、大久保利通と幕末の福井藩主、松平春嶽の関わりをお伝えします。



松平春嶽像
(福井市立郷土歴史博物館)

松平春嶽は明治3(1870)年から明治12(1879)年の約10年間に記した回顧録、「逸事史補(いつじしほ)」で、大久保について「大久保参議一蔵は、……古今未曾有の大英雄と申さねばならない。徳川の処分、封土(領地)の奉還、廃藩置県、……日本全国の人心を鎮定してその方向を定めた。すべて大久保一人が全国を維持することによるものである。維新の功績は大久保をもって第一とする。」とし、最大級の賛辞を送っています。

その大久保と春嶽は明治維新後、新政府においてともに重責を担います。しかしながら「逸事史補」で示された賛辞とは異なり、実際、春嶽は新政府内で大久保に絶えず苦汁をなめさせられていました。

福井藩は、明治新政府において、議定に春嶽、また参与に由利公正、中根雪江ら5人が任命されるなど、新政府内で重要な役割を担うとされていました。明治2(1869)年3月には、全国諸藩の意向を図る議事機構として、「公議所」が設けられ、各藩の代表により重要議案が審議されました。

「公議所」は、春嶽が目立した公議政体路線を具体化したものでしたが、大久保らが「無用の論多く、未だ今日の御国体には適し申まじく候」として強硬に反対した結果、同年6月にその機能を大幅に縮小されることとなります。藩閥専制政治を目指した大久保らは、公議政体派の排除を図ったと言われています。当時、政府内の要人で、藩主出身は春嶽ただ一人で、また、横井小楠の暗殺や由利公正の帰福等、福井藩出身者の離脱が相次ぎ、春嶽は政府内で孤立していきます。この動きの裏には、大久保らによる意図的な福井藩出身者排除の画策があったとされています。

春嶽は、その生涯で最も尊敬した人物を、薩摩藩主、島津斉彬とし、斉彬こそが明治維新の原点であると評しています。その斉彬が育てた人物として、春嶽は「逸事史補」において、大久保を高く評価しています。しかし、実際の心の内はどうだったのでしょうか。
<参考資料> 「逸事史補」

~幕末ふくい歴史紀行~ [福井市立郷土歴史博物館]

古代から現代まで福井の歴史を紹介する常設展示室、越前松平家伝来の品々を展示する松平家史料展示室等があります。また、福井城舎人門遺構、名勝養浩館庭園とともに、「福井 歴史の庭 散策ゾーン」として福井の歴史と文化を発信しています。

・【住所】福井市宝永3丁目12-1 JR福井駅から徒歩15分



福井市立郷土歴史博物館

★お知らせ ドーンと福井 in 神楽坂「越前・若狭まつり~来て! 観て! 食べて! -福井」

・11/19(土)・11/20(日)の両日、東京都新宿区神楽坂の神楽坂通り・赤城神社境内で福井を満喫できるイベントが開催。神社境内の神楽殿では、福井ゆかりの先人展を開催。廃藩置県後の初代東京府知事、由利公正などの先人達を紹介。【住所】東京都新宿区神楽坂 JR中央線・東京メトロ有楽町線「飯田橋」駅下車 徒歩約5分